

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873700441
法人名	医療法人青峰会
事業所名	アクティブライフ保内
所在地	愛媛県八幡浜市保内町宮内 1 - 3 2 4
自己評価作成日	平成22年8月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年9月7日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭菜園で 季節折々の野菜を育て 収穫し食卓にだしている。  
 特変があれば24時間体制で主治医、連携看護師の指示を仰ぐことが出来るので安心がもてる。  
 毎月のホーム新聞(ブルーベリー)を発行し家族さんに近況報告が出来る。  
 中庭には ブルーベリーを五本植樹しており 夏には収穫し みなさんで食べている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ご家族にも毎回案内を出して、会議への参加を呼び掛けておられる。会議に参加されたご家族からは「ケアの取り組みの詳細がよく分かった」と感想をいただいた。会議で話し合った内容は、ホーム便りでも報告されている。参加者からは、事業所の看板が小さい、ホーム便りの写真が小さい等、具体的な意見をいただいております。改善していけるよう話し合いを行っておられる。  
 いろいろな理由を言って「入らない」と言われる利用者の方は、時間をおいて誘ってみられたり、声かけを工夫されている。併設デイサービスのリフト浴を利用されている方もあり、ユニットから1名ずつ2名の職員が介助して支援されている。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. <b>利用者の1/3くらいの</b> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. <b>毎日ある</b> 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらいが</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらいが</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. <b>利用者の1/3くらいが</b> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらいが</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 アクティブライフ保内

(ユニット名) A 棟

記入者(管理者)  
氏名 篠原 初美

評価完了日 平成 22 年 8 月 25 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)	
			理念は スタッフで共有できていると思うが実践に充分つなげているとは、いえない。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「地域 家族 ホーム間における相互のふれあいを大切にし、笑顔あふれるその人らしい生活を支援する」と平成20年に理念を作成して、玄関に掲示されている。事業所では「地域の方やご家族と協力して利用者を支えていける」よう取り組みをすすめておられる。	
			(自己評価)	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出時の挨拶は心がけている。回覧板、奉仕作業、夏祭りなどのつながりは大切にし 出来る限りの参加はしている。	
			(外部評価)	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加いただいている区長の方から「事業所のこと分かった」と感想をいただいた。敬老会には、日赤奉仕団の方が、色々な余興を見せてくれる予定になっている。又、地域の方が野菜や花の苗を持って来て下さり、中庭に植えて利用者が見て楽しんで収穫されている。	地域の方達に事業所のことをさらに知っていただけるような取り組みや、地域のことを知ることのできるような機会作りに工夫を重ね、地域との関係を深めていかれてほしい。又、事業所の特性や有用性を活かして、地域に貢献できるようなことについても考えていかれてほしい。
			(自己評価)	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、認知症についての話は取り上げたり参加者の方々からの質疑応答で理解に工夫しているが、地域に向けての支援までは 不十分である。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>一人でも多くの方の参加をして頂きたく家族の方へも案内した。そこで、質問や情報交換を行いサービスの架け橋につなげる努力はしていると思う。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>ご家族にも毎回案内を出して、会議への参加を呼び掛けておられる。会議に参加されたご家族からは「ケアの取り組みの詳細がよく分かった」と感想をいただいた。会議で話し合った内容は、ホーム便りでも報告されている。参加者からは、事業所の看板が小さい、ホーム便りの写真が小さい等、具体的な意見をいただいております。改善していけるよう話し合いを行っておられる。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>定期的に市のGH連絡会議に参加して 安全でより質の向上を高めるため 情報収集に努めている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>市の職員は、運営推進会議には「平日の昼間」に参加して下さるようになってきている。市が主催で、グループホーム連絡会が2ヶ月に1回開催されている。連絡会には、管理者とともにユニット職員が交代で参加しており、各事業所が「知りたい内容」を持ち寄り意見交換をされている。</p> <p>市の担当者は、運営推進会議に参加できる日時が限られているようだが、時には、その他のメンバーの方の参加しやすい日時にも焦点を当てて会議を開催されてみていいのではないだろうか。いろいろな方に参加をいただけるような取組みをすすめていかれてほしい。会議のすすめ方についても市の担当者の方と相談しながら工夫して取り組まれてほしい。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>スタッフ全員が、拘束をしないケアを理解し実践出来ている。玄関には センサーで扉の開閉を把握出来るようにしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>身体拘束をしないケアの実践に向けて、職員全員で勉強されている。ご家族からは「安全のためにベッド柵を付けてほしい」と要望される場合もあるようだが、ご本人の動きが分かれば職員が駆け付けることを説明して、ご理解いただき、手すりの柵に鈴を付け、見守りを多くして対応されている。又、利用者によっては、ご家族に持参していただいたマットレスをベッドの足もとにおいて対応されている方もある。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  自宅までの把握は出来ていないが、附帯施設の勉強会などで虐待防止について学ぶ機会がある。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  現時点では この制度を必要とされる方はいないためかスタッフ間でも知識が持てている人はすくないように思う。今後学ぶ機会があれば参加をしたいと思う。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約時には 今後、トラブルの起こらないよう理解、納得のいかれるまで 説明はさせて頂いている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  契約時にも説明はさせて頂いている。玄関に設置してある苦情ボックスは 家族さんからの意見や苦情は現在のところ無い。  (外部評価)  ご家族には、入居時に「何でも言って下さい」と伝えておられる。管理者は職員に「ご家族の来訪時には、必ずご家族へ声をかける」よう話しておられる。足遠くなっているご家族には、電話等で現況報告をされ、要望等を聞くようにされている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月に一度のスタッフ会に意見交換する機会は設けているが随時、管理者はスタッフの意見や気持ちを聞き入れるように努めているが 全てにおいて 反映されているとは限らない。	
			(外部評価)	
			月に1回のスタッフ会は、全員が揃う貴重な機会でもあり、管理者は職員個々に、発言の機会を作り、意見を引き出しておられる。スタッフ会で「翌月の行事予定」を立ててシフト調整等もされている。「中庭の草引きに手が足りない」ことを相談すると、すぐに、法人から草刈りに来ていただき、きれいになっていた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			資格取得によって給与の変動があることはスタッフ会で周知している。それに伴ってか資格にチャレンジするスタッフが増えている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			附帯施設の勉強会は、出来るだけユニット一名づつ計二名の参加をしている。外部の研修も案内文を提示しスタッフが自由に参加出来るようにしている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			殆どが管理者中心に交流機会をもっているが スタッフだけで対応できる場合や GH連絡会議は毎回交代での参加にしている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入所されてからの不安や戸惑いを軽減できるよう 事前訪問や面会などを行っている。その時に本人さんの要望や気持ちを聞き入れるようつとめている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入所前に見学に来られたり 管理者が事前に連絡をいれ家族さんの要望など聞きそれをスタッフにも周知している。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入所されるのは大半が 母体からの方なので情報課との間で既にサービスを話し合っておられ決定されている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>スタッフにも個人差があり統一は難しいものがあるが毎日の生活で共有できる作業や活動で関係を築いている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎月発行のGH新聞を通してホームでの過ごし方や情報提供をしたり 面会時には 利用者さんの近況報告、自室での共有時間を提供したり普段からの絆を大切にしている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入所されてからは馴染みの人や場所は途切れがちになっているが家族さんが実際に利用者さんと行きつけの理容店や知り合いの自宅などに行かれるときはある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご主人が毎日来られる方や、夕食介助に来られる息子さんもいる。以前からカラオケがお好きな方が、事業所でもカラオケを楽しんでおられた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士 話の合う方もいれば 殆ど会話のしない関係の方もおられる。孤立しないよう話の架け橋役をこころがけてはいる。トラブルが発生した時には、敏速に対応し仲介にはいる。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了してからの関係は殆どないが 母体の病院へ移動された場合には、面会をしてこれまでの関係性を大切にしている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアプランの作成に本人さんの希望を聞いている。それが困難な方には、生活歴、本人さんの行動 表情などから組みとって支援に繋げている。 (外部評価) 利用者「どうしたいか」をお聞きしても「お返事をもらえない」が増えてきているようだ。ご家族にお聞きしたり、管理者は、日頃のご本人の言葉の中から探っていきたいと考えられ、利用者ご本人の言葉を記録するように職員に話しておられる。	管理者は、さらに「記録の仕方を検討して、利用者の日常的な会話や行動から意向の把握に努めていきたい」と話されていた。さらに、アセスメントも入居時のままの場合もあるようだ。現状に即した計画の作成に向けて、ご本人の思いや意向等の収集に努められアセスメントを充実させ、介護計画に反映していかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族さんからの情報収集や 本人さんとの会話の中でこれまでの生活歴の情報を得よう努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 朝の送りから利用者の様子、 介護記録、業務日誌等で心身状態も把握出来ていると思う。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	<p>今年9月、ケアマネージャーの交代があり、介護計画に沿った記録を書くような欄を設けることを検討されていた。介護計画の支援状況が確認できるような記録に整備されて、具体的に現状に即した計画の作成に取り組んでいかれてほしい。</p>
			<p>毎月のスタッフ会でカンファレンスにより、評価見直しを行い、家族さんの意向も踏まえて計画作成している。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	<p>ケアプランに沿ったケアが完璧に出来ているかは難しい時もあり、介護記録にはプランに沿った支援が記入出来るようスタッフと課題を共有しながら、見直していきたい。</p>
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	(自己評価)	<p>家族さんの面会時を貴重な時間として 利用者さんと居室でゆっくりと過ごして頂いている。</p>
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	<p>必要に応じて、消防署の指導や相談員の訪問、学生の見学、体験などの受け入れは出来ているが地域資源との協働は充分とは言えない。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎日 主治医へ利用者の様子を報告し、定期的に往診 に来て頂いている。家族さんの希望があれば 他の 医療機関への受診も可能。</p> <p>(外部評価)</p> <p>かかりつけ医は、定期的に往診して下さる法人の医 師となっているが、希望があれば他の医療機関への受 診や入院もできるよう支援されている。法人の看護師 が、週1回健康チェックに来られ、利用者の体調管理に ついて相談されている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>医療連携の看護師が週一回訪問に来られ 利用者の状 態を診て頂いている。また、適切なアドバイスや情報 交換を行っている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の入院の場合、殆どが母体になる為、情報交換 や相談は常に出来る体制にある。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>契約時、家族さんとは、終末期のケアの方針について は説明しており、具体的な話し合いをしている方もい る。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居時に、看取り支援についてご家族に説明されてい る。これまでに事業所で看取りを支援されたことはな いが、希望があれば主治医・看護師・ご家族・管理者 で話し合い、対応していくようになっている。実際に 利用者が食事が摂れなくなったり、呼吸が辛くなる と、ご家族は、入院を希望されるようだ。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 附帯施設の勉強会で看護知識・技術がある。酸素吸入や吸引機の使用が スタッフ全員 身につけるようにしたい。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害マニュアルを作成しており、年二回の避難訓練も実施している。スプリンクラーの設置でスタッフが仕組みを周知出来るように勉強会をした。運営推進会議でも地域の方々に ご協力の呼びかけをしている。 (外部評価) 3月にスプリンクラーを設置された。夕食後の利用者が居室にいる夜間時に、実際に避難訓練を行われた。「昼間とは違って利用者一人ひとりをベッドから車いすに移し避難させることは、予定より時間がかかった」と管理者は話しておられた。消防署からは「何回か繰り返して自主訓練を行う」ことをアドバイスいただいた。いざという時は、地区の区長の方に連絡するようになっている。地震の場合は、中庭に避難するようにホーム内で決めておられる。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 尊厳とプライバシーの確保に努めて「接遇」に取り組む声掛けはしているが スタッフの中には、尊厳に欠けた声掛けになっている時もある。 (外部評価) 利用者同士のトラブルには、双方のプライドを傷つけないような対応に配慮されている。管理者は、利用者に「ちゃん」と、呼びかけたり、幼児言葉を使ったりしないように職員に周知されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 出来るだけ自己決定をして頂き 支援している。希望を聞きゆっくりとしたペースで過ごして頂くよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) スタッフの人数不足の日には どうしても介助が時間に沿ってしまう時があるが利用者さんに希望を聞いて状況を把握するよう努めている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 月一回の出張美容を利用されている。外出の身だしなみにも気をつけ希望の服装等を着用して頂く。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備は 限られた方だけになるも 出来る作業はスタッフと一緒にして頂いている。頻繁ではないがかたづけも自らされる方もおられる。普通食で対応出来ない方はキザミ、ミキサー食に変えている。	
			(外部評価) 現在、事業所は、利用者の状態のこともあり、食事の準備を行える方が減り「利用者のできること」が少なくなってきたようである。座ったままできるような、豆やつわろの筋取りやもやしの根切り等をされている。職員は、利用者の介助をしながら一緒に同じものを食べておられた。イスが利用者の体格に合わないこともあり、足元に四角い空き缶を置き安定して食事ができるようにされていた。一人ひとりに合わせて、食べやすいように刻んだりミキサーにかけたりされていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分は出来るだけ 無理のないよう 声掛けして摂取して頂いている。食事の取れない時は栄養補助食品で対応している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアは必ず行い 歯ブラシも利用者さんに応じたのを使用し 拒否をされる時は時間をずらしてからケアしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 立位の困難な方にもスタッフ二名で トイレでの排泄を支援している。訴えない方には 排泄パターンに応じた誘導をしている。 (外部評価) 一人でトイレに行ける方は少なく、パッド交換がうまくできない方や立位が不安定で二人介助が必要な方がおられる。それでもできる限りトイレに行って頂きたいと職員は考え、尿意が不確かな方でも2時間毎に誘導されている。夜間、頻回にトイレに行こうとして転倒の危険がある場合は、ご本人が動くとき鈴が鳴り、職員に分かるようにされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 出来るだけの自然便を心掛けてはいるが 困難であれば主治医から内服薬の処方を受けている。ラジオ体操を毎朝行っている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) スタッフの人数不足には どうしても調整してしまい希望どろりにいかない時があるが時間に制限しないでゆっくりと入浴して頂いている (外部評価) 事業所の浴室で入浴できる方は少なくなってきているようだが、2～3日に1回は入浴できるように支援されている。いろいろな理由を言って「入らない」と言われる利用者の方は、時間をおいて誘ってみられたり、声かけを工夫されている。併設デイサービスのリフト浴を利用されている方もあり、ユニットから1名づつ2名の職員が介助して支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの気持ちを尊重しつつ 希望を聞き、居室やソファで休息して頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) スタッフ全員が薬の副作用は把握出来ていないと思う。誤薬のないよう服用前の再確認の徹底に気をつけている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 歌を唄ったり 新聞折りや広告折りされたり ビデオ鑑賞おされている。水戸黄門はみなさん毎日楽しみにされている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 車椅子が多いため 全員でのお出かけは難しい。スタッフの多い時は買い物 散歩などに出かけている。天気の良い時には テラスで過ごす時間もある。	
			(外部評価) 利用者に行きたい所を聞くと「自宅が気になる」と言われる方が多いようだ。ご自宅が近い場合は、散歩時等に車椅子で立ち寄ってみられたり、ご家族が迎えに来られ、戻ってみる方もある。車いすを使用する利用者が増えたため、外出にはデイの車を借りたり、職員数等も必要になってきている。	ご本人やご家族とも相談しながら、介護度が重度でも、体調や天候をみながら、季節を感じたり、懐かしい気持ちになれるような場所等に出かけることはできないだろうか。外出時協力していただける方等も作り、利用者が出かける機会を作っていかれてほしい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の所持している方はおられず必要な物品があれば家族の了解のもと、ホームの立て替えを利用している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙の書ける方は殆どおられず 毎週県外の家族さんからの電話を楽しみに待たれる方もおられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>共有場所としては 車椅子が多いため 少し狭い感じもするが季節感がある壁画や飾りで雰囲気を明るく心地よくすごして頂けるよう工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>元は、ケアハウスだった建物を改装しているホームで、居間から利用者の居室や玄関が見えないので、玄関センサーで利用者や来客の出入りが分かるようになっている。広い中庭には、季節の野菜や桜・ブルーベリーを植えておられた。居間から中庭が眺められ、開放感があり、天気の良い時に等は、テラスに出て過ごすこともある。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>玄関 廊下 共同スペースに 思い思いに過ごして頂けるよう 椅子やソファを設置している。</p>	
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>契約時に説明しており ご自宅から使い慣れた荷物を持って来られている方もいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室入口には、職員手作りの表札が掛けられてある。タンスとベッドは備え付けとなっており、冷蔵庫やテレビ等を持ち込まれたり、ご家族の写真や折り紙の作品を貼っておられる方もおられる。昼食後は、おやつまで居室で横になられる方が多く、職員は各居室の室温に気を付けておられた。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>トイレの戸を引き戸に取替え利用者さんに安全かつ負担が少なくなった。</p>	